



先日、12月に県教育委員会主催の「信州つばさプロジェクト」の短期留学に参加した2年生の県教委へ提出する留学終了報告書を見させていただいた。このプロジェクトは、長野県の高校生が、将来世界の様々な分野で活躍できる人材として成長できるよう海外留学を後押しする事業です。

留 学先は、オーストリアのウィーンでした。

生徒本人はウィーンについての印象をこう書いています。「プロジェクトを通して新たな発見を得ることができた。音楽に関連した建造物などが多い中、音楽だけものすごく保護されているわけではなく、絵画や工芸品などの芸術全般の文化も発達しており、ハプスブルク家の宮殿や国民に歴史を学ばせるための大きな博物館がいくつもあって、現地の人々も何年間もかけて学ぶほど多くの芸術文化の保護を行っている」と。

そして、現地では個人レッスンを受講したりミニコンサートを企画し発表したりしましたが、一緒に活動をした現地の子どもたちの姿勢から今後に繋がる示唆をもらったようです。「自分の演奏能力向上のために必要なことなどについて知識を貪欲に求めていく熱量や音楽に向き合う姿勢は、音楽以外の場面においてもとても大切な見習うべきものであることに気づくことができた」と書いています。



こ の報告書の「留学タイトル」は、「新しい出会いと変化」としています。これまでの日々の生活から離れてはじめての留学という体験は、新鮮であり、まさに新しい出会いであったことが伝わります。

今回の体験を部活動の仲間と共有し、今後の活動への意欲が高まったことなどをあげ、音楽への興味・関心がより向上したようです。そして、ウィーンの人々や留学仲間との交流から、新しい自分の発見や英語学習のモチベーション向上も大きな変化として書かれています。



生徒本人にとって、今後を左右するような、とても大きな体験であったことは間違いないと推察します。校内でこのような体験談をもっと多くの生徒に聞いてほしいと思いました。そのときには、自分の言葉で体験から真に感じた「新しい出会いと自分の変化」を語ってほしいと願います。